

教育、産業、食・食材をつなぐ創生活動分科会 代表 榎 るみ子

学び、考え、行動する私達の分科会は、「アクティブ淡路島」をグループ名とし、多くの人のいろいろな知見や経験を学ぶこと、高齢化による後継者不足を解消すること、淡路島の産業を活性化させることを目指し、以下の取組を実施しています。

①農業のロボット化を進めることで、高齢社会にあっても魅力的な島を目指し、自動草刈機や改良した特殊小型作業車の導入の検討、メーカーの協力を得てパワーアシストのデモンストレーションを実施しています。

②食や食材の豊富な淡路島ならではの資源を活かすため、農業の6次産業化に至るまでのヒヤリング調査を実施しています。

③農業やIT関連等様々な教育を受けることのできる寺小屋の創設を目指し、農業初心者を対象に、生産から流通・消費対策までを学ぶことで、職業人として自立できる支援体制の整備を進めています。



▲パワーアシストのデモンストレーション ▲農業の6次産業化の検討会

淡路の魅力発信分科会 代表 沖田 和良

淡路の魅力発信分科会では、淡路島の魅力溢れる宝(自然、歴史、産業、伝統芸能、食材)を学んだり、体験したり、食べたりすることで、その魅力を肌で感じて再確認するとともに、情報発信に必要な映像や写真を撮影し、SNS(Facebook、You Tube等)を活用する勉強会を実施してきました。

淡路島の食材である淡路島3年とらふぐを情報発信するために、料理の動画・写真撮影を行いました。今後は、撮影したデータをもとに、情報発信方法の検討を行っていきます。



▲SNS活用の勉強会

全体の活動

淡路くにうみ夢フォーラムの開催

3月4日(土)、「命をつなぐ持続可能な島」環境立島あわじ「2030年の姿を描く」をテーマに、南あわじ市広田地区公民館において淡路くにうみ夢フォーラムを開催しました。当日は、74名の参加者が、淡路島の2030年の将来像やその実現方策について、4つのテーマ(ひとと暮らし、まちや地域、産業としごと、安全安心)別のグループに分かれて活発に話し合いを行いました。その後、各グループからは、描いた将来像を実現するために地域の繋がりを大切にすること、農作業にロボットを導入すること、企業誘致して雇用を生み出すこと、淡路島の魅力をPRすること、滞在型観光を地域ぐるみで進めること、防災訓練や地域の安全に対する訓練を実施する等の具体方策が提案されました。



▲グループ発表



▲グループでの意見交換

環境立島あわじ

～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島”～

淡路地域ビジョン委員会Facebook

検索

淡路地域ビジョン委員会の活動を発信しています。是非「いいね!」を押してくださいね(^^)



28淡路@2-018A4

発行/淡路地域ビジョン委員会

事務局：兵庫県淡路県民局 県民交流室 未来島推進課

〒656-0021 兵庫県洲本市塩屋2-4-5 ☎0799-26-2085 FAX 0799-24-6934

E-Mail awajikem@pref.hyogo.lg.jp

第8期淡路地域ビジョン委員会

活動の記録

淡路地域ビジョン委員会では、

「環境立島あわじ～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島へ”～」という目標を実現するために、4つの実践目標を掲げ、住民自らが淡路島の未来はどうあるべきかを考えながら、さまざまな活動に取り組んでいます。

実施目標 1 誰もが役割を持ち、地域の宝が生きる島づくり

実施目標 2 個性と活力にあふれ、新たな価値を生み出す島づくり

実施目標 3 自然とのつき合い方を再考し、その恵みに支えられた島づくり

実施目標 4 経済、社会、環境が調和し、命をつなぐ島づくり

「第8期淡路地域ビジョン委員会始動」

私達は地域ビジョン実現に向けて、より実践的に策定された地域活性化総合特区計画で「エネルギーの持続」「農と食の持続」「暮らしの持続」の三本柱から成る「あわじ環境未来島構想」を心肝に染め、個性豊かに9分科会を作り、島を駆け回っています。ビジョン委員それぞれが今いる場所で地域に溶け込み、信頼の輪を広げてきました。

時には意見が合わず対立することもあります。国生みの歴史と文化を日々肌で感じている私達にとって、根っこが繋がって一つひとつ乗り越えることができました。

神話では淡路島が国の始まりとされているこの島から、21世紀の新しいこの国のかたちを発信できるように、これからも委員一丸となって頑張ります。



第8期 淡路地域ビジョン委員会 委員長 狩野 揮史

防災分科会

代表 原 竜也

本年度も兵庫県防災士会淡路エリアの皆さまと共に活動してきました。島内地域総合防災訓練への参画、洲本市社協主催の「災害にも強いまちづくり講座」への協力、プラットホーム淡路島と共催で臨床心理士の先生を講師に迎えた講演会の開催など、地域の人たちとの交流も深めてきました。



▲まちの防災マップづくり

また、由良小学校では、認知症キッズサポーター養成講座の開講、恒例となっているまちの防災マップづくり「ほうさい探検隊」を実施しました。由良地区では昼間は大人が少なく、子どもたちも大切な防災の担い手となります。そのために小学生の時から防災に関心を持つことは必要不可欠なのです。

今後も、大人のみならず子どもたちにも、更なる防災意識の普及啓発活動を続けていきたいと思ひます。



▲講演会

福祉分科会

代表 安居 道彦

福祉分科会は、「認知症をささえる家族の会・にじの会」の活動を通じて、介護する側・される側の「つながり」と「居場所づくり」を支援しています。

10月9日(日)の「ふれ愛まつり～洲本市健康福祉まつり&社協のつどい」では、認知症に対する理解を広める啓発運動と、家族会のメンバーと一緒にカレーの販売ブースを出展して協働の場づくりを行いました。

11月11日(金)は「第6回介護者のつどいIN淡路島」を開催し、淡路島内外から117名が参加して「住み慣れた地域で最期まで暮らしたい」をテーマにグループ討議を行いました。

高齢化が加速するなか、介護保険制度も目まぐるしく変わり、思うようなサービスが受けられずに居場所を見失う高齢者が増えています。制度のみに頼らず、いつまでも住み慣れた地域で暮らしていけるよう、私たちの活動が淡路島の地域づくりの先駆けとなれるよう前進してまいります。



▲ふれ愛まつりでのブース出展



▲第6回介護者のつどい IN 淡路島

地域づくり淡路分科会

代表 岩藤 紀子

地域づくり淡路分科会では、住民にも観光客にも役立つような地図を作ることによって、この街に興味を持っていただきたいと思ひ活動しており、洲本市にある本町8丁目商店街の活性化のために地図を作成する計画を進めています。出来上がった地図によって人が集まるようになれば、今回作成した地図に載っていない隣の地域の地図も地域住民と一緒に作っていききたいです。



▲地図作成の計画づくり

まちづくり淡路分科会

代表 田村 伊久男

まちづくり淡路分科会では、まちの魅力を地域内で情報共有すること、島外・海外へ発信することを通じて、淡路地域の活性化を目指しています。分科会が発足した後、地域づくり淡路分科会と合同で会議を開催し、今後の活動計画を検討しました。

今後は、まちの魅力を洗い出し、淡路島の知名度の向上を図っていきます。



▲活動計画の検討

竹林分科会

代表 西野 菊高

竹林分科会では、昨年に引き続き「あわじ島竹取物語」を旗印として放置竹林の整備、竹材の有効利活用の推進を行っています。

春の筍狩りに始まり洲本第三小学校での竹工作教室、鮎原菅原塾では小学生が竹の食器作りに挑戦、関係者が調理したカレーライスを満喫しました。淡路文化会館で開催された「緑の少年団」との交流イベントにおいても、県下の参加小学生や教師を対象に竹工作教室を行いました。

秋には、恒例の「淡路島えもんうまいもんフェア」、「花と緑のフェア」、「元気っこフェスティバル」、「第9回かぐや姫竹林コンサート」、「農林水産祭」の他、洲本市で開催された「ひょうご森のまつり」にも参加し、淡路島の竹の繁茂状況のパネル展示、竹細工の展示・実演を行い、里山保全の必要性をPRしました。

今後は竹材の大量消費の方向性を見出していくとともに、「竹ヒゴ作り」「竹ざる」等の製作に挑戦していきたいと思ひます。



▲第9回かぐや姫竹林コンサート



▲緑の少年団との交流

渦潮世界遺産登録推進分科会

代表 山口 平

兵庫・徳島両県で推進している「鳴門の渦潮」世界遺産登録について、渦潮のひときわ優れた自然美・自然現象を子供たちと一緒に世界に広げていければとの思ひで、淡路島内の小学校高学年(5・6年生)を対象とした「鳴門海峡の渦潮学習」出前授業を実施しています。

出前講座では、ペットボトルを使ったミニうず潮発生装置で水のうずを作る体験、ロボットのPepperによる渦潮の解説、クイズ形式の紙芝居の実演、渦コマを回して回転する渦輪を見ること等を行っています。



▲「鳴門海峡の渦潮」出前講座

自然環境・エネルギー分科会

代表 森崎 義彦

自然環境・エネルギー分科会は、淡路島で繁殖し分布が拡大している特定外来生物ナルトサワギクの駆除活動や淡路島でのナルトサワギク分布アンケート調査による普及啓発の他、駆除時期を探るためにナルトサワギクの成長過程の観察を行っています。私達の活動は、「淡路島の生態系を守る活動」として、サンテレビの番組「ニュースポート」で放映されました。

今後の活動としては、デザイン風車を小学生や高校生と共同で作成し、風車の回転運動を電気エネルギーに変換して地域の防犯灯として利用することを考えています。



▲ナルトサワギク駆除作業